

～志合わせて夢実現プロジェクト～

目的 子どもたち自身をはじめ、先生、保護者、地域住民そして合志市の行政に関わる私たちがそれぞれの立場で、誰もができることをその価値に気づき、継続的に実践をすることで一人一人の子どもたち、そして私たちみんなの夢を実現し、幸福で明るい笑顔あふれる合志市の未来を創造する。

幸福な人生を送ることは、全ての人にとってあこがれであり願いです。そして、価値観は様々ですが、根本的には幸福な人生とは、多くの人と関わりを持ち、豊かなつながりを持って生きているかが重要な要素となることは間違いのないでしょう。そこで教育の分野において合志市では、「志を合せること」「夢を持ちその実現に向けて実践すること」をその柱としたいと考えました。「志」とは、人が生きていく上で「何のために生きるのか」「何をなすべきか」と自分自身に問い続けることであり、見い出した自分の生き方の原点ともいうべきものです。また、「合わせて」は、自分のことだけでなく、「みんなのために自分に何ができるのか」ということを忘れず、たくさんの人の思いや願いと出会い、認め合うことがより確かな「生き方」になると考えられるからです。かつてこの合志市には、「学び」を大切にして、人の生き方を育ててきた「合志義塾」がありました。この精神がこれからの合志市にも受け継がれていってほしいと願っています。

次に「夢実現」という言葉についてですが、まずはっきりさせておきたいのは「夢」についてのとらえ方です。一般的には、職業や地位といったものとして考えられがちですが、幅広くこれから先の自分の有り様としてとらえたいと思います。そこで大切になってくるのは「出会い」です。直接とは限りませんが、多くの先人や先輩方と出会い、「自分も将来はこうありたい」と「あこがれ」てほしいと思うのです。この「あこがれ」こそが生きる原動力となります。そして、次の段階としてその「あこがれ」に近づくために自分の生活に具体的な変化を起こし、その変化が習慣化するまで継続することが最も大切だと思うのです。たとえば、小学生が中学生を見て、あんな先輩のようになりたいたいか、子どもたちが大人を見て素敵な大人になりたいとか、大人だって、あんな風に年を重ねる人になりたいとか、常に未来の自分を夢見て一日一日の生活の中に「自分ができること、続けられること」を大切にして生きることこそ充実した幸福な人生につながるのではないのでしょうか。私たち大人は子どもたちから「あこがれられる」存在になることが大切であることに気づくべきです。大人になってよかった、親になってよかった、この地域で暮らしてきてよかったという大人の存在こそ子どもたちに「夢」を持たせることにつながるのです。

例えば、ある子どもが「宇宙飛行士にあこがれ、将来は宇宙飛行士になりたい」と考えたとします。この考えが、「夢」になるか、だだの「空想」になるかは考えた時点では決まっていません。この後の行動によって決まります。生活に何の変化もなければ、この考えたことは、「空想」のまま、決して「夢」になることはありません。ところが生活の何か、例えば「早起き」でも「食事」でも「こだわり」を持って生活を変化させ、継続していくとき、「夢」となり得るのです。すなわち「夢」を持っている人は、毎日の生活の中で何か「こだわりを持って具体的に取り組み、継続している人なのです。そこで私は「夢実現」に効果がある毎日の生活における基本的な「こだわり」を皆さんに提案したいと思います。

さらに「夢実現」には必ずと言っていいほど「壁」が立ちふさがります。自分ひとりの力ではどうしようもない「壁」があるのも現実です。しかし、その「壁」を突破する誰かが必ず存在していることにも気づいてほしいのです。夢をあきらめなかった人たちの経験談の中に共通していることは「その誰かに対する感謝の気持ち」です。自分の夢実現のための理解者・協力者・支援者の存在に気づいて下さい。子どもたちにとっては、周りの大人こそが、その役割を持っていると言っても過言ではありません。保護者や地域の皆様そして、学校の先生、市行政に関わる皆さん、子どもたちと一緒に「自分ができることにこだわり、継続し、習慣化すること」で「みんなが幸福に生きるという夢の実現」に向けて出発しましょう。



提言1 子どもたちによる「志合わせて夢実現」Myプロジェクト

☆児童会や生徒会を中心に子どもたち自身が取り組んで下さい。

朝は自分で起きましよう	朝食を食べましよう	自ら学びましよう
<p>○大切なのは「起こされる」から「自分で起きる」という成長です。</p> <p>○自然と目が覚めるようになるためには「よい睡眠」が必要です。早寝早起きの習慣が重要です。</p> <p>○起きたらすぐに「光を浴びること」「洗顔をすること」「トイレに行くこと」を大切にしましよう。</p>	<p>○朝の食事はとても大切です。必ず何か食べ物を口に入れましよう。</p> <p>朝食は「用意してもらおう」から、「自分で用意できる」ようになることこそ成長です。</p> <p>○炭水化物と水分の摂取は、最も大切です。食べた後のトイレ習慣も心がけて下さい。</p>	<p>○自分から進んで学ぼうとする姿勢が最も大切です。本や新聞を読んだりして必要な情報に触れることを心がけましよう。</p> <p>○「計画無き者に実践なし」自分で作った計画をもとに毎日、決めた場所で決めた時間、学習に取り組ましよう。</p>
<p>自分で布団から出ることは「自律」の第一歩です。どうやったらうまく起きられるか工夫が必要です。前日の夜、寝るまでにどう過ごすがとても大事です。</p> <p>また、起きてすぐの洗顔や朝日を浴びることで体内時計を整えましよう。身体の調子を整えることに役立ちます。</p>	<p>朝食をとることは、食育の視点からも最も重要な要素で、健康で安全な生活をおくるためにしっかりと認識する必要があります。</p> <p>学校の給食はお昼過ぎになります。食べてこないと血糖値が下がり、集中力がなくなり、学習効果も低下します。何をどれだけ食べるかにもこだわりたいものです。</p>	<p>学習に対する関心意欲のもとになるのは学習に対する準備です。最も効果があるとされている家庭学習は予習です。授業の前に自分で取り組んでおくことや読書活動など取り組むことは関心意欲の向上だけでなく、生涯学習の基礎(主体的学習習慣形成)づくりにもつながります。</p>

提言2 家庭生活における「志合わせて夢実現」Homeプロジェクト

☆PTA活動を中心に家族みんなで取り組んで下さい。

先に挨拶と返事の「ハイッ」 に取り組ましよう	役割作りこそ居場所作りです みんなで家事を分業しましよう	心を傾けたノーメディア会話を 大切にしましよう
<p>○自分から先に声をかけ、目を見て笑顔を見せてからお辞儀をしましよう。いつもの「おはようございます」、「おやすみなさい」、「いってきます」、「ただいま」などを大事にしましよう。</p> <p>○名前を呼ばれたら笑顔の「ハイッ!」を習慣にしましよう。</p> <p>○大切にしたい言葉です。「ありがとう」と「ごめんなさい」</p>	<p>○自分のことだけでなく、家族みんなの役に立つことを家族みんなで分担しましよう。</p> <p>○風呂掃除・トイレ掃除・食事のあとかたづけなど複数取り組んだり、当番制にしたりしましよう。</p> <p>○成長に合わせて家事の内容も充実させましよう。</p> <p>○家族の代表として地域の活動に参加するのも大切な家事です。</p>	<p>○なるべく家族揃って食事をしましよう。たまには、TVを消し、学校での出来事を話しましよう。</p> <p>○学校からの連絡やお便り、広報や回覧板など家族みんなで見ましよう。</p> <p>○携帯・スマホ・インターネット利用のルールを徹底し、ネット依存や様々なインターネット関係の被害から家族を守りましよう。</p>
<p>人と関わり合って生きる時、基本ともいうべきものが挨拶・返事です。自分から先に声をかけ、目を合せて、笑顔の挨拶ができていかししっかりと確認して下さい。まずは、家庭や学校で丁寧に実践したいものです。また、「はい」をうまく使うことこそコミュニケーション能力獲得の重要な要素です。</p>	<p>家庭も小さな社会です。自分の居場所を作るためには「自分の役割」が必要です。「自分のことは自分です」だけでなく、誰かの役に立つことをして喜ばれることこそが人を成長させます。「机に座っている」だけ、「成績さえ上げれば」では、「本当の学び」ができずに「生きる力」は身につきません。</p>	<p>うれしかったこと、悲しかったこと、腹が立ったこと、どんな小さなことでもかまいません、目を合せて何でも聞いてやるのが大切です。また、地域や学校から出されている文書は、とても重要なものや提出期限があるものもあります。家族みんなで毎日確認する習慣を作らましよう。</p>

提言3 学校における「志合わせて夢実現」Schoolプロジェクト

☆校長先生を中心に先生方皆さんで取り組んで下さい。

小中一貫教育の柱として、 具体的な実践を積み重ねましょう	規範意識の醸成と豊かな心の 指導を大切にしましょう	生涯学習の基盤となる主体的 学習習慣の習得を進めましょう
<p>○それぞれの中学校区でグランドデザインをもとに小中で一貫した具体的実践を実施しましょう。 基本的教室設営・無言掃除・黙想・先語後礼のあいさつ等</p> <p>○全ての指導においてチーム実践を進めていきましょう。 全校集会・学年集会等の活用</p> <p>○学校生活ノートや生活記録カードやキャリアパスポートなどを用いた生活習慣獲得に取り組みましょう。</p>	<p>○先生方だけでなく、児童会や生徒会活動などを活発にして、学校から「いじめや差別、暴力や暴言」をなくしましょう。</p> <p>○各学年あるいは学校全体で朝夕の会、給食、掃除といった日常的な活動(隠れたカリキュラム)もていねいに見直し、毎週の道徳授業を要として心の教育に取り組みましょう。</p> <p>○青少年赤十字活動を推進して生きる力を伸ばしましょう。</p>	<p>○個別の学習相談・進路相談を定期的実施し、子どもたちの学習に対する関心や意欲をのばしましょう。</p> <p>○授業では「個」の学習場面と「協働」の学習場面をきちんと設定しましょう。</p> <p>○子どもたちが課題を持って授業に参加できるよう家庭学習(段階的に予習重視の宿題)や地域学習(体験)を積極的に推進しましょう。</p>
<p>中学校を卒業するとき、子どもたちに職業人、家庭人、地域人としての「準備と覚悟」ができた姿を実現することこそ、教育基本法でいうところの「人格の完成」にほかなりません。そのためには、一人一人の子どもたちの発達段階を考慮しつつ、「自己実現のために自分でできることがあることに気づかせ、継続させる」ことを徹底しましょう。</p>	<p>全ての教育活動の根底に人権教育と特別支援教育の視点を持ち、常にキャリア教育と道徳教育の面からもその実践を確かめていく必要があります。「全ての教育活動を通して」とはまず先生方に認識、意識されない限り、子どもたちの「自己肯定感」の醸成にはつながりません。自ら「気づき、考え、実行できる」子どもたちの育成を図りましょう。</p>	<p>すでに生じている個人差や苦手意識などは、子ども一人一人に個別の対応が必要です。個人面談や教育相談などを活用しましょう。また、予習や宿題の徹底は、子どもたちのやる気をのばすのに最も効果的です。中学校卒業時には、物事に対してしっかりと準備(予習)をして取り組む習慣を獲得してほしいものです。</p>

提言4 地域における「志合わせて夢実現」Communityプロジェクト

☆地域の方々みんなで地域学校協働活動を推進しましょう。

「見とってはいよ」 子どもたちやお年寄りなどの地域での見守りに心がけましょう	「言うてきてはいよ」 情報交換による信頼関係・地域作りを進めましょう	「一緒にやりまっしょい」 子どもたちに人生の先輩の姿を見せてやりましょう
<p>○子どもたちやお年寄りなどの様子に目を向け、地域全体のごとに関心を向けて下さい。</p> <p>○地域の安全確保には危険の発見・予見が重要です。一人一人が「防犯カメラ」の役割を担いましょう。</p>	<p>○学校や行政が地域の方からの確かな情報を知ることは学校づくり、地域づくりの出発点となります。皆さんが持っている情報をそのままにせず、なるべく早く誰かに伝えるようにしましょう。</p> <p>○電話やメールも活用できます。</p>	<p>○学校や地域には皆さまが参加できる行事やイベントがたくさんあります。各種のおたよりや広報、回覧板などでお知らせしますのでご家族、ご近所みんなで参加しましょう。「できるときにできるだけ」が合い言葉です。</p>
<p>マザーテレサの言葉に「愛情の反対は、憎しみではない。それは、無関心である」という言葉があります。合志市の住みよさは、人と人の確かな思いやりのあるつながりであることをみんなで大切にしましょう。「ちょっとお節介」で「お人好し」な人が「ふるさと」を支えているのです。ぜひあなたもその一人になって下さい。</p>	<p>こんなことを言ったら苦情だと思われたりとか、どうせ変わらないからといって何もしていないでいると住みよい地域にはなりません。ぜひ学校や行政、自治会等に情報を下さい。寄せられた情報を大切に一緒に「未来の合志市」づくりを進めていきましょう。直接は、いいにくいことでも電話や手紙・メールなど様々な方法でご協力下さい。</p>	<p>学校や地域の行事のなかには長年にわたって受け継がれているものもあります。この時代で失われないようにみんなの協力で次の時代に残していきましょう。また、私たちは熊本地震を経験し、災害発生時に大切にしなければならないものの一つとして「共助」の存在に気づいたはずで、次の時代へのバトンリレーに参加して下さい。</p>

提言5 合志市行政における「志合わせて夢実現」koshi city プロジェクト

☆合志市総合計画に沿って「健幸都市こうし」の実現に取り組みましょう。

合志市職員をはじめとして本市の行政に関わる皆さんが、多くの地域住民との確かな関わりの中で一つ一つ、一日一日を大切に仕事を進めていただくことが合志市の誇りだと思います。皆さんが市行政を自分の仕事として選んだきっかけは、「地域の方々の笑顔のために働きたい」ということだったと私は信じています。これからの時代を生きる子どもたちにも皆さんと同じ夢を持ってもらいたいのです。誰かの笑顔のために懸命に生きる「カッコいい大人の姿」を見せてやりましょう。

笑顔で挨拶をしましょう	仲間の仕事にも関心を持ち、互いに手伝いましょう	自分の住んでいる地域の活動に必ず参加しましょう
<p>○「自分から先に声をかけ、目を合わせて、笑顔であいさつ」が基本です。</p> <p>○TPOをしっかりとわきまえた挨拶を心がけましょう。</p>	<p>○一人で仕事をしないこと、「報連相」はもとより、思いやりと助け合いを大切にしましょう。</p> <p>○「おたがいさま」と「おかげさま」を合い言葉にしましょう</p>	<p>○区の行事、特に奉仕活動等には積極的に参加しましょう。</p> <p>○「一人一役」です。区の係や役員、園や学校の役員も引き受けましょう。</p>
<p>「笑顔で挨拶する」ことは誰もが最も手軽にやれる市民サービスでもあります。窓口だけではありません、知り合いかどうかに関係ありません、いつも笑顔で挨拶をする人が増えれば増えるだけ、みんなが楽しく生きていけるふるさとが実現すると思います。「あなたの笑顔」が「みんなの元気」に繋がります。</p>	<p>ややもすると家族より会話が多いのが仕事仲間です。「気づかれない工夫のある思いやり」の積み重ねで信頼関係を作り出しましょう。「ありがとう」には「おたがいさま」、賞賛には「おかげさま」を使いましょう。仲間が企画したイベントなど積極的に参加して下さい。「情けは人の為ならず」です。</p>	<p>「自分がしなくても」から「誰かがやらなければ」という意識転換を図りましょう。お人好しでちょっとお節介な人こそふるさとに必要な人なのです。心を亡くした「忙しい」という「言い訳」は悲しすぎます。「子どもたちがいつも私たち大人の姿を見ている」ことを忘れないようにしましょう。「背中で語りましょう」</p>

このプロジェクトは、子どもたちと学校や家庭、地域や行政がそれぞれの役割を分担するものではありません。お互いの教育を支え合う必要があります。例えば学校と家庭の関係では、「親の気持ちを考えなさい」「家の手伝いをしなさい」といったことを子どもたちに言うのが学校で「先生の言うことをしっかり聞きなさい」とか「地域の方に挨拶をしなさい」ということを子どもたちに伝えるが家庭の役割ではないかと考えたからです。「子どもは勉強さえしとけばいい」という言葉では子どもたちは決して育たないものです。子どもたち自身の力と私たち大人の組織的な力が子どもたちを本当の意味で成長させることができます。試されているのは私たち大人の信頼・協力関係だと思います。常に意識して互いのプロジェクトを支え合いましょう。

私が大切にしている言葉の一つにネイティブアメリカンのチェロキー族のこんな言葉があります。「あなたが生まれたとき、あなたは泣いていたが周りの人はみな笑顔だった。だからあなたが死ぬときは、あなたは笑顔で周りのみんなが泣いているような人生を送りなさい」最初この言葉に出会ったときは、「なるほど、なかなか意味のある言葉だなあ」と思っていただけだったのですが、年を重ねるにつれて「自分の人生は、今の生き方はこれでいいのか」と日々自分自身に問いかける基準のようなものになってきました。そのように考えるようになると学校教育の分野では「社会人（職業人）としてどう生きるか」にはこだわってきたものの家庭人や地域人としてどう生きるかについては取り組みが十分ではなかったことを考えさせられるようになったのです。家庭や地域でどう生きるか考えることの重要性に気づかされたのです。世の中は、超情報化社会に入ろうとしています。私たちの予想を超えた変化が生じようとしています。だからこそ、今一番大切なのは、私たちの立っているこの場所で今の自分ができることにこだわり、一日一日、ていねいに実践を重ねていくことだと思うのです。この提言の具体的な取組により、子どもたちをはじめ、私たちみんなの夢が実現し、幸福で明るい未来がやってくると信じています。

令和 2 年 3 月

合志市教育長

中島 栄治